

畑	50,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
山林	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
宅地	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
計									100,000

右(一)、(二)の合計額 七一、〇〇五圓

其の他金額に算出し得ざる利益

アフガニスタン便り (一)

カプールにて 池 本 泰 兒

昭和十年十二月十四日に伊太利人土木技師フランセスコモロビトとカズニ市地方に出張して調査した結果を大臣に復命しました。中一日置いて十六日に亦大臣からワルダールといふ處の河の水を引いて發電所を造るに就て、所要の落差があるかどうかをモロビトと一緒に調査して來いと命

令がありました。其の場所は獨逸のシーメンス會社の技師も別の自動車で行くから夫れに聞けとのことでした。何と

- 一、自動車の直通運轉に因り交通時間の短縮。
- 一、定期乗合自動車の運輸開始。
- 一、通學の利便に伴ひ教育の普及發達増進。
- 一、觀光客誘致の利益。

私はモロビトと腐れ縁があることせう。共同調査を辭りたいとは思たのですが、大臣としてはお互に試験して見るといふ考へもあるのでせうし、又私も六難しい言葉で其んなことを云つて誤解を受けることも嫌だものですから黙まつて行くことにしました。

十二月一日の出發です。同行はモロビトと彼の通譯、及び私と私の受け持つ工事の監督になる菅のモハメツド・ア

スマイヤルと自動車の運轉手とであります。此の前はモロビトが私の家に迎へに來たのでこん度は私が彼の家に誘ひに行くことにしました。彼の家を見ることも初めてです。彼はこの國へ來るに就て新婚して、奥さんと一縮に來たようです。出發の時玄關の處と、門の處で彼は奥さんにキツスしました。私は見ない風をしてゐたのですが、夫んな習慣を知らなかつた私は變な氣持がしたものです。

處でモロビトは今運轉しやうとする運轉手の自動車に乗ることは嫌だと云ひ出しました。其の運轉手は下手なことは私も前に乗つたことがあるから知つては居ますがさう嫌やがらないでもないのではなからかと考へました。何でもモロビトは前に何處かの調査の時この自動車とこの運轉手とで行つて顛覆して天井を壊し窓硝子を割り、又寫眞機を失なつたのだといつて居た様です。伊太利語で話すのですから判つきりはわかり兼ねます。夫れから自動車の詰所へ行つて交渉しましたが、他の運轉手はどうしても出られないらしく、夫れで大臣の處へ更に交渉に行きました。處が大

臣は、其の自動車に池本は先に何度でも乗つて調査に行つたのだから行けないことはない。其の儘で行けと云ひました。之れでは仕方がありません其の儘で行くことになりました。大臣はベルシヤ語で云ふのですから之れまた私にはつきりさう云つたかどうかは云へません。何せ同じ運轉手で行くことになつたのは事實です。こんなことで出發は十一時程になりました。ワルグークに着いたのは午後二時頃です。シーメンズの技師は既に測量して居ました。此の人は獨逸語の他に英語を話します。然し私は英語でもペラペラ話されると判らないのですから英語は少し判ると云つて置きました。酷く遅かつたなといひましたから、自動車が惡かつたのだと答へました。彼は日歸へりの心算ですから朝早く來て大急ぎで測量してゐます。其の水の取入口の位置、發電所の位置等をモロビトが、ベルシヤ語の通譯で聞いて呉れました。私は英語で夫れを聞いたのですが少しも判らなかつたのでモロビトの仕事振りで察しなければなりません。

夫れから私共はシューメンスの技師と別れてアスマイヤル持參の晝食を皆でやりました。もう四時近くなつてゐます。持つて來た夜具だのなんかを民家へ運ばせた頃はもう薄暗くなつて來ました。モロビトは鐵砲を持つて來てゐたので鳥を打ちに行きました。彼は鳩を四、五羽とつて來ました。其の後も彼は朝晩二、三羽宛の鳩をとつて來ましたが、すっかりカプールの彼の家へ持つて歸りました。日本人だつたら、一、二羽は分けて呉れるものだがなあと思つたことです。

其の晩の食事はアスマイヤルがカプールから持つて來た御馳走で皆が食べました。然しモロビトは先の旅行で懲りたのでせう。食パンも、又大きな魔法壘三つに、紅茶だの鶏の煮たのを入れて持つて來て獨りで夫れを食べました。其の晩村人が澤山集まつて來てアフガンの樂器で音樂をやつたり唄つたりして呉れました。手の節くれだつた大きなアフガンの田舎男が、マンドリン様な樂器を鳴らして、自ら恍惚となつて居る様子も面白いと思ひました。リズムも

仲々いいです。私も一つ位アフガンの唄を覚えて日本へのお土産にしたいと思つて居ります。

私は日本に居た故アフガンは音樂もない、笑ひもしない戲談も云はない。色彩は白と黒とだけしかないと聞いて來ましたが夫れは間違ひです。音樂はあります、又唄の非常に好きな國民の様です。尤も私の聞き得るのは稀に戸外でのやるものだけで、家庭内では女も混つて踊りもし唄ふとも聞きましたが、夫れを見得る機會は絶対に出來ないと云つてもいい程六難しい事の様です。戲談も云ひます。私はベルシヤ語が未だ良く判らないので、何か戲談を云はれた時夫れが眞實の事を云つてゐるのやら戲談かの區別が判らないで随分と間違つてゐることがあります。戲談なんて餘程話術に長けないと云へないのですし、又判らないものです。笑ふことは普通聲を出さない程度に笑ふのです。時々低い聲の出る程の笑ひをします。豪傑笑ひなんてはない様です。又笑ひに誤間かすと云ふ様な手は此の國には殆んど無いのではないかと思ひます。尤も私自身は言葉が判ら

ない時、この笑ひに誤間かすと云ふ手を使ふことにしてゐます。色彩は人工のものなら先づ何んでもありません。然し品物が全部輸入品ですからさう街が華やかだと云ふ様な澤山の色彩はありません。山か岩だけであり、家が泥色であり、女が纏て全身灰色の覆物をしてゐるとすれば、日本の様な派手な色彩は見ることは出来ません。唯高い岩山を背景に宏大な泥の城壁の様な家の前に、黄色く染めた羊皮の外套に眞紅の刺繡のあるのを着た長老達の群を見る時は美しいと思ひます。

以上さう日本と變つたことではない様ですがお酒を呑むことと、女を見ることとは之れは絶対に出来ない事です。此の嚴重な事は寧ろ此の國の外に居る人には考へ得られない事でせう。

次の日、モロビトは未だ水準機を買つてゐないので私の持つて來たので、二人して測量しました。其の日は六籽程の距離の間を測りました。之れが終へた時に初めて大臣の命令の意味が判りました。此の土地に之れから發電所を造

らうとしてそれに必要な落差が採れるか、必要の水量があるかの調査だつたのです。シーメンズの技師はシーメンズ會社で發電所用の機械を賣るために、來てゐるので其の場所まで見附けた譯です。何故に獨逸から機械を買ふかは此の國と獨逸との間に六百萬マーク程のクレジットとかが設定されて居るからださうです。私もこのクレジットとか云ふことの意味を良く知らないのですが、何でも六百萬マークまでの品物を借金で買へる。即ち掛けで六百萬マーク迄品物が買へると云ふにあるらしいです。だから日本の商人が現金で賣り込まうとしても夫れは仲々六難しいことではう。アメリカ人の土木技師ビビ안의やつてゐる鋼橋も矢張り獨逸から買ふ様になつて居る様です。

夕方自動車から故障で動かないと云ふことを知りました。もう昨夜來た處から六籽も來てゐるのですし、薄暗くなつて居るので其のあたりの村に泊ることになりました。運轉手は自動車の處から離れないのですから一日會ひません。アスマイヤルは自動車の處へ荷物を取りに行つたのでせ

う途中で居なくなりました。モロビトと通譯とは鳥を打ちに行きました。もう暗くなつて來ました。モロビトが鳥を打つ間其處に待つてゐて呉れと云つたのですが嫌だつたので、人夫達と測量道具を持つてボンベイと云ふ村に行きました。人夫達ももう暗くなりましたから其處へ私が泊ると思つたのでせう。或る家に連れて行きました。私は初めて見たのですが、村々に旅人の泊る家があるのでせう。其の部屋には子供も一緒に二十人程居ましたが床は藁を敷いたとても汚ない處で私は入つて居ることも出來ず更に道路端に出ました。もう暗くなつて重い道具を持つて寒い道路端に群らる見物人の中に唯一人居た時には實際どうなる事かと思つたことです。夫れでも荷物を持つて來たアスマイヤルにも會ひ、モロビト達も私を探しに來たのに會つた時はほつとしました。或る一軒の家に宿を借りることの出來た時にはもう夜も八時頃でした。食事は出張が一晩泊りのつもりですからモロビトのアスマイヤルの持參のものはありませんから、其の家の御馳走を食べました。

私共が測量するのに要する人夫は群つて見物に來る村の人達から必要なだけ呼び出して、賃金をやらすに使ふのです、當然言葉も判らないのですし。思ふ様に動いては呉れません。又此の物珍しげに見に來る人達にも困ります。私は良く働かさうと一人に五十錢位宛やつたのですが其の男達が、少行つては交替するには困りました。次の日馬を徴發して夫れで歸途につきました。此の徴發と云ふことは、馬でも人夫でも、又泊ることも晝食も夕食も勝手にやるのです。此の交渉に少くも一時間はかゝります。話しさへまともれば仲々親切ですが、夫れまでの交渉が大變なんです。下手な交渉をすると殴られ兼ねないのでから面倒です。アスマイヤルは此の交渉は仲々上手な様です。夫れでも千萬言を要します。モロビトの通譯がやる時は常は失敗です。殴り合ひの喧嘩さへやりました。其の日は馬で六里程行つてアンブハーグと云ふ村に一泊しました。私もモロビトも煙草をすつかり吹ひ盡して、袂囊に混つた粉煙草を原稿紙に巻いてのみ、夫れも無くなつた時、土地の人の吞

む葉煙草を貰らつて原稿紙に巻いてのみました。其の時
は夫れでも甘いと思ひました。此の國では卷煙草は全部輸
入品です。英國、露西亞、ペルシヤ、トルコ、エジプトあ
たりの製品が入つてゐます。之れを賣つてゐる處は街か、
乗合自動車の乗繼場所位にしかありませんから地方へ出張
する時は充分用意して行かねばなりません。此の輸入卷煙
草をのむ人は、外國人か此の國の相當上級の人達だけの様
です。一般の人は此の國で出来る煙草の葉を乾燥して、も
んで細かくしたのを水煙草の道具で吸ひます。之れは一服
分が一握り程要りますから數人で廻しのみです。勿論携帯
用ではありませんから、自宅で食後に主としてやる様です。
役所にも商店にも備へてあるのを見ます。卷煙草は珍重品
のうちでせう。接待用にします。だから何處かを訪問すれ
ば必ず之れを奨めます。又自分で吸ふ時も、傍に居る人に
も奨めなければならぬので、出張して通譯だの運轉手達
も随分吸ひますので、自分の吞料だけの分量では少し日程
が狂ふと足らなくなるのであります。

卷煙草の價格は相當に高價なので私は一日に一圓乃至二
圓見當も要ります。一月中旬から日本煙草のチェリーが市
場に出る様になりました。日本專賣局の標のない少の模様
の外國向になつたものですが、之れが今までの最低の煙草
と同額位で賣られてゐます。日本貨に換算しますと日本で
の十錢位になりませう。今ではすつかり私は此の煙草にし
てしまふました。然し安いしさう豊富にないのですから、
日本でのバツトや曉の様に直きに品切になるのでないかと
思ひます。欲を云へば「曉」も吸つて見たい。「朝日」も吸
つて見たいと思ひます。

此のチェリーの包装に就てですが箱には全部英語で書い
てあります。日本のだつてさうでせう。之れを此の國の人
に何故英語で書いて日本語で書かないのだらうと聞かれて
ちよつと弱りました。私もバツトやホープやエヤーシツプ
などは何故に英語になつてゐるのか判りません。

次の日又馬で峠を越える近道を出て一時頃乗合自動車の
ある道まで出て、夕方カプール市に歸へりました。カプー

ルに歸へるとほんとうにほつとします。

自分の自動車でなら三時間程で行ける處が若しその自動車に故障があれば三日がかりで歸へることとなります。故に斯う時間がかかるかと云へば、荷物が非常に多いからです、各自の寝具、食器、食料品、測量道具などを乗用自動車に積めるだけ積むのですし、又自動車も旅行中のガソリンを持つてゐなければなりません。だから自動車も世界普通の標準では随分無理をすることになりますから故障も多いし、痛みも早い様です。

十二月二十日にカプールに歸つて二十二日に大臣に報告しました。一つの機械で二人で測量したのですから同じ結果の筈です。夫れを別々に報告するのです水量の時に表面流速を量つたのですから、平均流速は其の八〇%を探らなければならぬのをモロビトは夫れを探らなかつたので、大臣は私にお前のは少ないがと云はれました。云へない言葉で吾々は表面流速を測つたのだから平均流速は八〇%を探らなければならぬと説明をしましたが、夫れが大臣に

通じましたかどうか、然し其の時の落差は水路の勾配を採つて二三米しかありませんでした。大臣は少なくとも三五米を必要と考へてゐるので、私達の調査は大臣の思ふ様にならなかつた譯です。又夫れより上流に選べば或は採れるかも知れないのに何故シーメンズの技師はそんな處を選んだのか知らず大臣は更にシーメンズの技師を呼びました。シーメンズの技師は取入口に堰堤を造ればいゝとか云つてゐた様です。然し大凡は其の上流に移すことに斷念出來ないらしく、お前達にもう一度上流の測量に行つて貰ふ、夫れには一週間後雪が降らなければ自分も行くと言ひました。十二月二十四日は大雪でした。二、三日は出發の出來ないのは確實になりました。然し其のあとでお正月が來ます。お正月に出張することは止めたいと思ひましたが忙しい大臣の都合では行かなければならぬかも知れません。此の國のお正月は三月頃になります。然し其の正月にも休みはないさうです。

十二月三十日も雪が降りました。お正月にはとうとう

出發出来ないで私も公使館で遙拜式をしお雜煮の御馳走になることが出来ました。一月二日も大雪でした。一月六日は非常に寒く日中零下一〇度にもなりました。もう大臣自身出掛けることは断念した様です。

其の後雪も降らず、寒さも少なくなつて來たので一月十五日に大臣は、私にモロビトと一緒にワルグアイクへ行つて此の前の上流を測量して來いと命じました。

一月十六日に自動車で出發です。こんどはモロビトが私の家に迎へに來て呉れました同行はモロビトと其の通譯、アスマイヤルと私と運轉手で、先の時とは別のシボレーの幌に別の運轉手です。之れは相當に上手に運轉します。お互に何日目にカブールに歸へれるやら判らないので充分に用意したものですから自動車は内も外も荷物で、一杯で荷物の山が動く様です。こんどはモロビトも水準儀を持つて來ましたから二人分の函尺も積むのに面倒しました。途中ワルグアイク附近の村長の家を尋ね一緒にワグアイクに行き其の日は泊るだけでもモロビトは今度も鐵砲を持つて來まし

たがこんどは一羽も採れませんでした。モロビトは食事は愈々用意を整へて罐詰、食パン、アルコールランプからコーヒを造る用意一切を持つて來て獨り別に食べました。私は土地のものを皆と一緒に食べることにしてゐますから別に持つては來なかつたのです。此の國の習慣として一、二泊の民家への宿泊は其の民家が御馳走して呉れることになつてゐますから、土地のものを食べるつもりなら手ぶらで行けます。尤も出張旅費は此の國の規定では呉れないのです。唯官設のホテルに泊る時には室料だけは要りませんが食糧費は要ります。然し調査に行つてホテルのある様な處は殆んどありませんし、又食料が一日十圓もしますから餘り泊れもしません。一、二泊民家に泊る時は民家の御馳走ですが夫れ以上泊る時には部屋だけを借りて食事は自分で造るのであります。だから夫には炊事道具から、ポイイまで連れて行かなければなりません。其の費用も呉れないのです。私の契約書には出張して出水等の場合豫定外の費用が要つた時には夫れだけは支給するとあります。此の國の規定で

あつて見れば仕方がありません。陸路は全部官用自動車か民家から徴發した馬かですから別に費用は要りません。又日當と云ふものも當然ありません。先づ出張すれば大抵損をすると云ふことになります。

民家へ泊つての感じは私は土地の人に非常な親切を感じて氣持ちもいゝと思ひます。然し旅から宿へついても手も顔も足も洗はずに居て其の儘食事をし又寝なければならぬのは少し耐りません。其の晩モロビトが何處を測るのか自分としては、先づすつと上流まで踏査して適當な場所だつたら測るが、良くない處だつたら測らない様にしたたいと云ひました。然し私は測量の終點が決まつてゐるのでから其處から上流に向けて河に沿ふて測り初めて所要の落差の採れる處でやめたいのだから、踏査しないで明朝直ぐ測り初めると云ひました。お互に言葉の通じない同志ですから細い説明は出来ません。之れを云ひ合ふのに永い時間かゝつて、繪と日本語と伊太利語とペルシヤ語とでやりましたが、大體の意味はお互に判つてもお互に自分の意見に相手

を従はせると云ふ様な藝當は出来ませんから遂に氣まつい思ひでお互に自分の意見通りしなければならぬことになりました。

翌朝私は河の左岸を下流から上流に向けて測り初めました。三人の工夫をつかつて函尺を建てさせ引き換へし水準器を見るといふ様な手間のかゝる方法で測りました。晝過ぎ私が約四籽位溯つた時にモロビトが對岸を下流向けて測つてゐるのを見ました。彼は五籽の處から下流向けて測つてゐるのを見ました。彼は五籽の處から下流向けて測り初めたさうです。其處では私の計算では二八米の落差しかありませんでしたから私は更に上流に二籽まで即ち九籽測りました。夫れ以上は絶壁の溪谷になつてゐるので昇れなかつたのです。其處での落差は三五米程になりました。夫れから私は引き歸へしたのですが、終點近くへ來た時にモロビトは随分高い山にあがつて測つてゐたのでそんな落差があつたのかと自分の測量に多少の不安を思ひました。次の日左岸の山へ昇つて見ましたが到底三〇米程の落差では

そんな高さにならないこと、又既に測つた下流の河川勾配から見て決してそんな勾配でないことを察して、自分の測量が確かであると考へながら、歸途につきましました。こんどは自動車の故障もなく二晩泊りの旅でカブールへ歸へり着きました。

次の日は復命書を撤夜で造つて其の次の日大臣に復命に行きました。復命する日は何時もお互に相談して決めて置くのです。私が役所へ行つた時は既にモロビトの復命は済んで居ました。私は復命書を出して七籽測つて三五米の落差であることを大臣に説明しました。處が大臣はモロビトは五籽測つて四十八米の落差だといふぞといひました。私も困まつたことになつたとは思ひましたが、大臣だつて困まつたのでせうシーメンスの技師を呼べと云ふことになりました。シーメンスの技師が來ましたがどちらが正しいとも云ふことは出来ません。唯復命書だけは、私のは完成してゐて見取平面圖、縦斷圖、及水路築造に關する意見書も附けて置きましたがモロビトは大きな紙に未完成の縦斷

圖を持つて來ただけです。

シーメンスの技師はモロビトにも色々と問ゐてゐましたが、私には相手のとどうして違ふか判るかと思ひましたから判らないといひました。往復測つたのかと云ひましたからいや片道だけだと云ひましたが此の點だけは往復測つて置けば良かったと思ひましたが、モロビトだつて片道ですから同じことです。お前の測量に確信があるかと聞きましたから勿論だといつたことです。

結局シーメンスの技師は大臣に自分が今一度行つて來ると云つた様です。こんな時には色々な感情の起るものです。俺は試されて來たのではない。殊に獨逸の會社の技師に審判されるなんて嫌だ。此の際歸國するぞと云つてやらうかとも考へたことです。

二、三日して、モロビトの縦斷圖の出來たのを見てシーメンスの技師は調査に二日出掛けました。私の勝手な想像ですけれど此の復命書を見た時にシーメンスの技師は私の調査が正しいと思つてゐたのではないかと思ひます。然し彼

としてはどちらが正しいとも云へなかつたのだらうと思ひます。

シーメンスの技師の正式の復命のある前にモロビトはヂヤラバットと云ふ處に水路を造るについて二月程の豫定で調査に出發する様に命ぜられました。彼は夫婦共に其處に行くとかいつてゐました。之れで私も彼との共同調査を免れました。

シーメンスの技師は、調査に行つても、さう全線測つた様でもありません。三分ノ一程を測つて見た様です。然し發電所設置の位置、及び取入口の位置を大體決定して其の附近の正確な測量を私にさせる様に復命した様です。其の位置は當初彼の撰定した處です。唯取入口に少し高い堰堤を設ける様にしてあります。然し夫れでも、尙落差が低いかも知れないので、取入口の上流も測つて欲しいといふのであります。

之れでお前の測量は信用がならない。モロビトに之れをやらせることになれば、私も嫌な氣がしたでせう。然しお

前やつて呉れと云はれた時にも俺の仕事はそんな平面圖を造つたりすることぢやないとも考へました。然し考へ様に

依れば、平面圖を造ることは結局設計することであり、その測量する人が他に此の國にないとすれば、私がやつても仕方がないと考へて見ました。それで行きませうと返事をしました。之れが二月一日です。私は未だトランシットもポールもテープも枕も貰つて居なかつたので夫れを貰はなければならぬ。又既設の發電所を一度見たいと申し出ました。アフガニスタンで今日電燈があるのはカプール市とカンダハル市とヘラツド市との三市だけです。郡部は總てランプかカンテラか又は獸油に依る燈火かかであり、こんどワルダークに造るものはカプール市に補給するものであります。何せアフガニスタンは夏期五月から十二月までは雨も雪も降らず、山は殆んど裸山ですから此の間も相當の水量ある河が少ないので、發電所を造る處も少ないです。ワルダークも最渴水期に一四—一五米ノ秒の水量です。

二月二日に自動車の用意が出来てシャヴユルスラーヂと

云ふ處の既設發電所を見に行きました。之れも水量一〇立米/秒、落差三五米位のものでした。發電所の發電機は米國製の様です。發電機の廻る工場を見ると久し振りに文明の風にあつた様な氣がします。水路取入口をも見ました。之れで學校で習つた發電所の構造も思ひ出しました。土木局に居た頃杉村さんの見てゐる書類は發電所のもので時には私も之れが發電所かと見てはゐましたが、夫れは自分の仕事でない様な氣がして、念を入れて見たこともなかつたのです。

學校で習つたものを十數年振りに思ひ出して、之れでシーメンス會社の技師と掛け合ひをやる譯けです。シーメンス會社の技師にお前は何の技師かと聞きましたら、俺は發電所の技師だよ、土木技師だよと云ひました。彼の家には澤山の發電所の寫真だの、電氣機具だのありました。シーメンス會社から派遣せられた發電所専門の技師と見えます。

新京濱國道起工式に就いて

東京土木出張所

第六十九議會に於て協賛を經、昭和十一年度以降工期六ヶ年工費金壹千參百萬圓を以て起工する事となつた國道三

場協で盛大に舉行せられた。

十六號線の内、東京市荏原區戸越町を起點とし横濱市神奈川區西神奈川町二丁目を終點とする新京濱國道の起工式

此日は降りつゞきたる秋雨も名残なく霽れ、旭に映ゆる富士の白峯もあざやかに、所謂秋天高く氣もすがすがしく、天此の擧式を祝福するかと思はれた。

は、拾月拾四日午前九時半から川崎市小向地先川崎ゴルフ

午前九時前後より來賓は陸續として參集した。